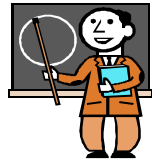


鳥獣害に強い地域づくりを目指して

～地域が一丸となって鳥獣害対策をしましょう～

鳥獣害対策マメ知識



サルの群れについて

サルの群れは一般的に10頭～100頭で組織され、おおよそ100頭以上になると分裂すると言われています。

赤ん坊(生後～1歳未満)、ワカモノ(1歳以上4歳～5歳)、オトナメス、オトナオスで群れを形成します。オスは4歳～5歳になると群れをわかれ、1頭で行動したり、オスだけの群れ(10～20頭位)を形成する事もありますが、交尾期になると消滅することもあります。

行動域は、ある程度決まっており、隣り合う群れの行動域と重なりあう場合もあります。近年はエサを求め行動域を拡大させる傾向にあります。季節によって群れの動くスピードが違い、特に夏から秋にかけては活発に動きます。

H18年度に市が行った調査の結果、市内サル加害群(農作物等の被害を及ぼしている群)については、行動域が一番広い群で約10km²でした。

サル行動域調査の方法



サルを捕獲後、テレメトリ発信器を取り付け、群れに返す。



受信器を使用し、サルの動きを追い、行動圏等を調査。